東京外国語大学総合文化研究所　総合文化研究　第 28 号（2024）
Tokyo University of Foreign Studies, *Trans-Cultural Studies*, Vol. 28 (2024)

（一社）日本詩人クラブ 10 月例会〈国際交流〉プログラム

言の葉を紡ぎ自由を希求する
――ペルシア詩人たちからのメッセージ

田代智恵子

2024 年 10 月 12 日 13 時半より、日本詩人クラブ 10 月例会〈国際交流〉プログラム「言の葉を紡ぎ自由を希求する――ペルシア詩人たちからのメッセージ」が、本学アゴラ・グローバル内プロメテウス・ホールにて開催された。本プログラムは「ペルシア語神秘主義叙事詩『精神的マスナヴィー』のデータベース化によるテクスト研究」科研（研究代表:佐々木あや乃)、本学ペルシア語専攻、総合文化研究所との共催で行われた。

プログラムは日本詩人クラブ会員の自作詩の発表で幕が上がり、第一部では本学及びイランのペルシア文学研究者 3 名がペルシア文学について講演し、第二部ではペルシア詩朗読とイラン伝統楽器サントゥールによるコラボレーション、そしてサントゥールの独奏及び日本の箏曲演奏が披露され閉幕した。

第一部ではまず、本学教授の佐々木あや乃先生が、古典から現代までのイラン文学史を概観する小講演を行い、鍵となる二人の詩人――ペルシア神秘主義詩で名高い 13 世紀の詩人ルーミー及び非韻律詩を提唱した 20 世紀の詩人アフマド・シャームルー――を紹介して、続く本講演へと橋を架けた。これを受けて、初来日のモハンマド・デフガーニー博士が「ルーミー、自由の人」の題で講演し、近現代以降の「自由」が一般的に政治的・社会的自由を指すのに対し、ルーミーにおける「自由」とは貪欲や嫉妬や復讐心といった内的な枷からの解放を意図し、喜びや安らぎと結びついた概念であることをつまびらかにした。博士はルーミーの重視した自由を「内的自由」、政治的・社会的自由を「外的自由」と呼び、現代を生きる我々は、そのいずれもがバランスを保つ社会を目指すべきであると語りかけた。続けて本学のペルシア語特任准教授であるナスリーン・シャキービーモムターズ先生が「嗚呼、もし自由が歌をうたうなら――アフマド・シャームルーの詩における自由の意味の分析」と題した講演を行った。若くして投獄を経験していた詩人シャームルーの作品において、「自由」が第一義的には政治的・社会的自由を指すこと、そして詩人がそこに計り知れない重要性を見出していたことが指摘された。また一方で、「自由」が伝統的に意味してきた「高潔さ」を糸口に、詩人が晩年にかけて、倫理に基づいた一種の「人間主義」へとその「自由」概念を結実させていったことが解き明かされた。

第二部では、初めにアフマド・シャームルーの非韻律詩「夜に」と「あまねき愛」をシャキービー先生、日本語訳を詩人クラブ会員の今村佳枝氏が朗読した。次に、岩崎和音氏によるサントゥールの伴奏にのせて、ファッロヒー・ヤズディーの定型詩一篇、デフガーニー博士自作の定型詩「ブッダの訣別」及び「自由」が、デフガーニー博士と、同会員の稲村拓

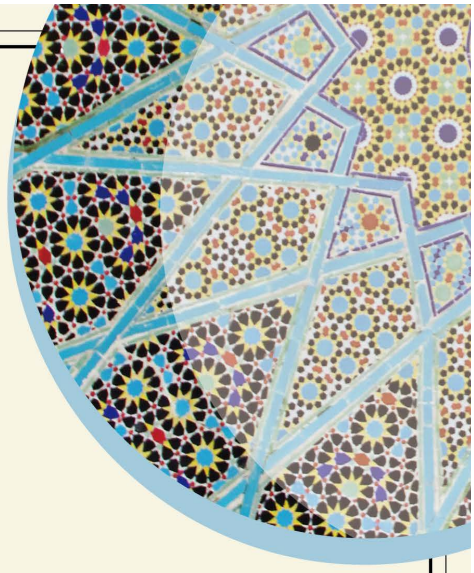
本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ表示 4.0 国際ライセンス (CC-BY) 下に提供します。
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

也氏によって朗読された。非韻律詩と定型詩の律動の違いを聴き比べる妙味とともに、ペルシア語と日本語の全く異なる響きが、即興で奏でられるサントゥールの音色にのって呼応する、美しく刺激的なひとときであった。各詩の内容は第一部の講演で紐解かれた「外的自由」と「内的自由」の間を行き来し、人間が自由であるということについて根源的に問いかけ、自由への渇望を表明する、まさに本プログラムの題――言の葉を紡ぎ自由を希求する――にふさわしいものであった。また、報告者はデフガーニー博士自作の詩の日本語訳を担当していたため、一語一語を空間にそっと置くような詩人の稲村氏による美しい朗読を聴くことができたことも、大きな喜びであった。第二部の後半は、イランで第一流の師のもとサントゥール演奏法を修め、現在はコンサートや教室、各種メディアへの音源提供等、幅広く活躍されている岩崎和音氏の独奏と、生田流の大家である母・深海さとみ氏に箏と地歌三味線を師事し、各地で精力的に演奏活動をしておられる箏・三味線演奏家の深海あいみ氏の箏曲演奏が披露され、来場者たちはイランと日本双方の伝統楽器の美しい音色に酔いしれた。プログラム終了後にアゴラ・グローバル内カフェ・スペースにて開かれた懇親会では、イラン料理を囲んで、サントゥールの甘美で幻想的な演奏、そして箏の現代的で迫力ある演奏に対する感想が多く聞かれた。

以上のように、本イベントは日本ではまだ馴染みのないペルシア文学に光が当たる滅多にない貴重な機会となった。言葉の最高学府たる本学で、第一線の文学研究者たちが集い、こうした会を開催できたことの意義は大きい。また、全体としても、来場した多くの人々にイランの文化の豊かさを少なからず伝えることができたのではないかと思う。報告者も微力ながら本イベントに関わることができ、大変光栄に感じている。この場をお借りして、ペルシア文学に白羽の矢を立ててくださった日本詩人クラブの方々、ならびにご登壇いただいた方々にお礼申し上げる。また、本学非常勤講師の鈴木珠里先生ならびに大阪大学講師の中村菜穂先生には、「イラン現代詩史概略」を含む、ペルシア詩理解のための充実の資料を作成いただいたうえ、当日の司会も務めていただき、感謝の念に堪えない。そして会の円滑な運営を縁の下から支えてくれたペルシア語専攻の後輩たちにも改めて感謝を伝えたい。

なお、ペルシア詩や「自由」については『詩と思想 9 月号』及び『詩と思想 10 月号』（土曜美術社出版販売）に佐々木あや乃先生と鈴木珠里先生が寄稿された「艀船を泊めて」を、当日の詳細なプログラムや講演内容については 11 月 30 日発行の『詩界通信』（日本詩人クラブ）に本学元教授の丹羽京子先生と佐々木あや乃先生が寄稿されているので、ぜひお読みいただきたい。

「言の葉を紡ぎ自由を希求する――ペルシア詩人たちからのメッセージ」
登壇者 : 佐々木あや乃、モハンマド・デフガーニー、ナスリーン・シャキービーモムターズ、岩崎和音、深海あいみ
日時：2024 年 10 月 12 日（土）13:30 ～ 17:30　場所：東京外国語大学プロメテウスホール
主催：（一社）日本詩人クラブ
共催：「ペルシア語神秘主義叙事詩『精神的マスナヴィー』のデータベース化によるテクスト研究」科研、東京外国語大学ペルシア語専攻、東京外国語大学総合文化研究所

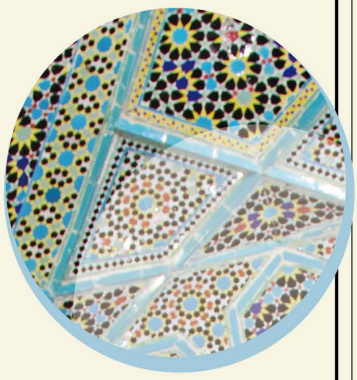


（一社）日本詩人クラブ 10月例会〈国際交流〉プログラム

言の葉を紡ぎ 自由を希求する

―ペルシア詩人たちからのメッセージ

「イラン人の 99%は詩人である、ただ詩集を刊行しないだけ」
と言われるほどの詩の国イランより、気鋭の文学研究者お二人をお迎えします。
第一部で「自由」を希求する詩人たちについての講演を、
第二部では「自由」にまつわるペルシア詩の朗読を、
イランの伝統楽器サントゥールの演奏とともにお届けします。
多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

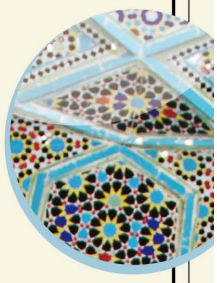


PROGRAM

総合司会　｜花潜幸
会員による詩の朗読｜下川敬明、宮尾壽里子、森雪拾

第一部　司会進行：鈴木珠里

ゲスト紹介と小講演「ペルシア文学へのいざない」　｜佐々木あや乃
講演 1「ルーミー著『精神的マスナヴィー』からのメッセージ」　｜Dr.Mohammad DEHGHANI
講演 2「嗚呼、もし自由が歌をうたうなら（アフマド・シャームルー）：ペルシア現代詩における「自由」の概念と立ち位置」　｜Dr.Nasrin SHAKIBI MOMTAZ



第二部

詩の朗読とサントゥール演奏、邦楽演奏
朗読 1 Dr.Nasrin SHAKIBI MOMTAZ（日本語訳朗読：今村佳枝）
朗読 2 Dr.Mohammad DEHGHANI（日本語訳朗読：稲村拓也）
サントゥール伴奏：岩崎和音
伝統音楽の演奏　｜サントゥール独奏：岩崎和音
｜箏曲演奏：深海あいみ

※会の終了後、ホール内のカフェ・スペースにて懇親会を行います。（懇親会は有料です）

2024年 10月12日（土）/ 入場無料

13:30開演〈17:30終了〉　会場 / 東京外国語大学 プロメテウスホール

主催 /（一社）日本詩人クラブ
共催 /「ペルシア語神秘主義叙事詩『精神的マスナヴィー』のデータベース化によるテクスト研究」科研、東京外国語大学ペルシア語専攻、東京外国語大学総合文化研究所
連絡先 / 例会・国際交流担当理事 丹羽京子（090-1107-1199）谷口典子（03-6265-7485）

登壇者プロフィール　Speaker profile

佐々木 あや乃
Ayano Sasaki

東京外国語大学教授。イランのテヘラン大学に学び2003年にペルシア語・ペルシア文学博士号取得。専門は9～15世紀のペルシア古典文学で、特に13世紀のルーミーと14世紀のハーフェズへの関心が高い。訳書にアッタール著『神の書』（平凡社 東洋文庫893）。

モハンマド・デフガーニー
Dr. Mohammad DEHGHANI

イランの文学研究者、作家、翻訳家。ペルシア語・ペルシア文学博士。イランの文学、歴史分野における著書多数。欧米や東アジアへの関心も高く、イランにおいて歴史、心理学、哲学の世界的名著のペルシア語訳を出版。著作・翻訳作品の講演活動やペルシア文学を中心とした市民講座はイラン全土で人気を博している。

ナスリーン・シャキービーモムターズ
Dr. Nasrin SHAKIBI MOMTAZ

東京外国語大学特定外国語教員。ペルシア語・ペルシア文学博士。世界の神話や民族英雄叙事詩、アフマド・シャームルーの現代詩への関心が高い。2022年10月より東京外国語大学にてペルシア語・ペルシア文学の教鞭を執る。

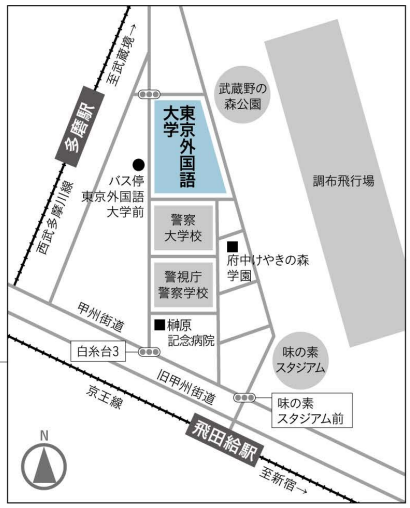
岩崎 和音
Kazune Iwasaki

イラン・ペルシア古典音楽サントゥール演奏家。大阪音楽大学作曲学科に在学中、ピアノの祖型といわれるサントゥールに出合い、独特の音色やリズムに魅せられる。テヘラン大学大学院芸術学部音楽学科イラン伝統音楽演奏コース（サントゥール）修士課程修了。古典音楽理論をダーリューシュ・タラーイー氏、サントゥール演奏法をカームカール兄弟らに師事、同大学より最優秀国際学生賞受賞。演奏活動の傍ら、都内でサントゥール教室パルディースを主宰、テレビ番組や映画・アニメの音楽制作も手がける。

深海 あいみ
Fukami Aimi

箏・三味線演奏家。4歳より箏、12歳より地歌三味線を母、深海さとみに師事。東京藝術大学音楽学部生田流箏曲専攻卒業。同大学院修士課程修了。利根英法記念邦楽コンクール奨励賞受賞。文化庁新進芸術家育成事業研修生となる。箏・三味線演奏家として各地で演奏活動を行う。

会場案内　東京外国語大 府中キャンパス
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1



- JR 中央線「武蔵境」駅乗り換え
  西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩 5 分（JR 新宿駅から約 40 分）
- 京王電鉄「飛田給」駅北口より
  多磨駅行き京王バスにて約 10 分「東京外国語大学前」下車

Google Map